

添付資料 2

目次

資料編	3
1. 対象エリアの将来像・基本戦略検討に向けた現況調査	4
(1) 調査・分析の視点	4
(2) 対象エリアのポテンシャルや課題	5
1) 立地特性	5
2) 暮らしを支える産業	6
3) 暮らしをつくるヒトの活動	8
4) 農林業	11
5) 観光	12
6) 暮らしを彩る取組みと資源	14
7) 域内交通	17
8) 環境	18







資料編



1. 対象エリアの将来像・基本戦略検討に向けた現況調査

(1) 調査・分析の視点

分野	調査・分析の視点
立地	・東京・名古屋等を含む広域的な立地特性等の調査により、広域的な特性やポテンシャル等を把握 ・対象エリア周辺の自然環境や地形等の調査により、対象エリア周辺の立地特性やポテンシャル等を把握
人口	・対象エリアにおける現状と将来の人口特性（人口動態・人口分布・滞在人口分布等）の調査により、対象エリア周辺の傾向や共通点等を把握
産業	・各市町村の主な産業（特に製造業）の中分類出荷額や割合、特色のある産業振興の取組等の調査により、産業の特性やポテンシャル等を把握
農林業	・対象エリアにおける主な農産物や農林業従事者の推移・高齢化率、農業に関連して展開している事業等の調査により、農林業の特性やポテンシャル等を把握
観光	・広域的なエリア及び対象エリアにおける主な観光・文化等の資源、外国人のニーズ調査により、観光の特性やポテンシャル等を把握
暮らし	・対象エリアにおける特色ある子育てや教育、移住促進等にかかる取組の調査により、居住環境にかかるポテンシャル等を把握 ・対象エリアにおける商圈や吸引力係数、商業施設の立地等の調査により、暮らしにかかる特性やポテンシャル等を把握
域内交通	・対象エリア周辺の新たな公共交通手段の確保にかかる取組、県内の公共交通利用者数・自動車保有台数等の調査により、交通の特性やポテンシャルを把握
環境	・長野県が掲げる 2050 ゼロカーボンに向け、各市町村での取組等の調査により、地域資源を活用した環境配慮にかかる特性やポテンシャルを把握



(2) 対象エリアのポテンシャルや課題

1) 立地特性

アルプスに囲まれた美しく豊かな長野県の南の玄関口「南信州」は、名古屋から 30 分圏内でつながる広域結節拠点へ

- ・南信州地域は長野県の南部に位置し、古くから三河・遠州と長野県を結ぶ南の玄関口として発展。
- ・南アルプスと中央アルプスに囲まれた天竜川沿いの段丘地形は「伊那谷」と称され、地質や地形、景観などの豊かな自然環境、地域の気候を活かした果樹栽培や、年中農作物を栽培できることなどが特徴。
- ・リニア開業や三遠南信自動車道開通によりアクセス性が向上し、大都市圏及び海外からの来訪も見込まれ、観光・ビジネス目的による経済効果や移住・二拠点居住等新たなライフスタイルの構築も期待される。

■ 広域立地特性



・リニア開業により、東京飯田間は約 45 分、名古屋飯田間は約 25 分に短縮。

・三遠南信自動車道の開通により静岡方面との連携強化、道路機能向上が期待される。

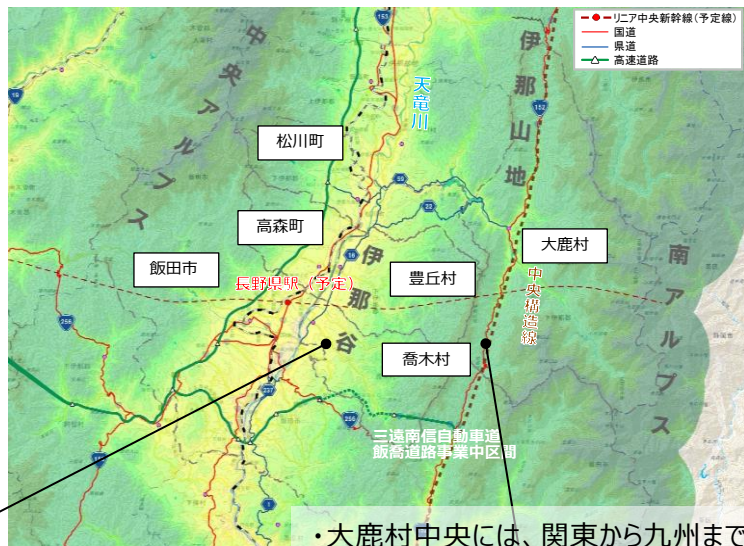
※令和 6 年住民基本台帳人口より

■ 対象エリア周辺の地形的特性



出典：飯田市 HP

- ・伊那谷は、3,000m 級の山が連なる南アルプスと中央アルプスに挟まれ天竜川に沿って南北に延びる盆地であり、山に囲まれていることから台風被害は少なく、季節ごとの景観・農作物栽培に優れている。



中央構造線(安康露頭)



- ・大鹿村中央には、関東から九州までを貫く長大な断層である中央構造線(関東から九州に伸びる長大な断層)が通っている。地質境界としての中央構造線が良好に露出して保存されており、活断層としての活動度は低い。

出典) スーパーメガリージョンの形成、長野県リニア活用基本構想、南信州未来ビジョン、しあわせ信州創造プラン 3.0、大鹿村中央構造線博物館 HP

2) 暮らしを支える産業

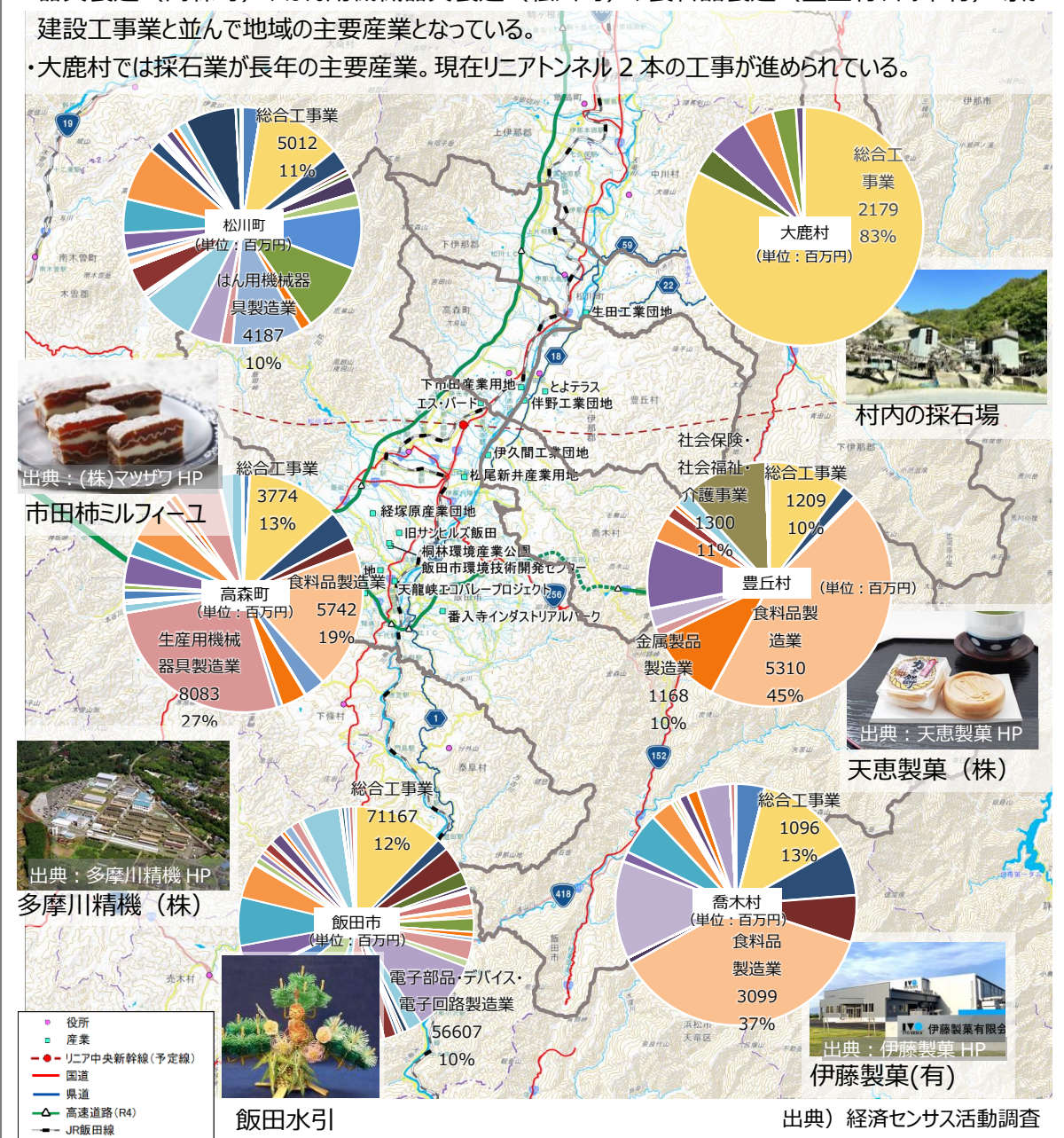
① 産業売上割合（中分類）・主な企業

天竜川沿いの飯田市や高森町で製造業、豊丘村や喬木村で食料品製造が盛んな一方、新たな産業・多様な就業機会創出が課題

- ・天竜川沿いに産業団地が点在し、各市町村とも製造業の売上げが高く、それぞれ特色ある製造業（電子部品等製造（飯田市）生産用機械器具製造（高森町）、食料品製造（豊丘村、喬木村））が主要産業となっている。
- ・エス・バード等、産業振興の拠点となる施設が立地し、新たな産業・多様な就業機会創出が求められる。

■ 産業系施設の立地と産業別売上げ（中分類）（2021 年）

- ・天竜川に沿って産業団地が各市町村に点在。
- ・エス・バードや環境産業公園等、産業振興拠点が立地。（飯田市）
- ・各市町村とも製造業の売上げが高く、電子部品・デバイス・電子回路製造（飯田市）、生産用機械器具製造（高森町）、はん用機械器具製造（松川町）、食料品製造（豊丘村、喬木村）等が建設工事業と並んで地域の主要産業となっている。
- ・大鹿村では採石業が長年の主要産業。現在リニアトンネル 2 本の工事が進められている。



② 産業振興施設

「エス・バード」を拠点に、新たな産業や雇用の創出・支援を推進

- ・航空機システムに関する地域の産業振興と人材育成の一大拠点として、飯田下伊那地域のリーディング産業創出を目指すエス・バードが立地。
- ・製造業・ソフトウェア業などの事業を新たに始める人などに対する技術相談、事業化支援などを行う飯田市環境技術開発センターが立地。

■エス・バード（所有者：南信州広域連合、指定管理運営：（公財）南信州・飯田産業センター）

- ・旧飯田工業高校校舎を活用した、産業振興と人材育成の一大拠点。航空機システムに関連する人材育成、研究開発、実証実験までを一貫して行う。
- ・南信州地域は、国際戦略総合特区「アジア NO.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の指定を受け、南信州地域のリーディング産業の創出を目指す。
- ・長野県内の航空宇宙産業に取り組む事業者と支援機関が連携し、バリューチェーンの強化等に取り組む団体「NAGANO 航空宇宙産業クラスターネット（ACN）」の拠点になっている。



【主な施設】



▲ACN 会員企業約 100 者



▲防爆性試験評価装置

・信州大学サテライトキャンパス

「信州大学航空機システム共同研究講座（※R7.4～ 次世代空モビリティシステム共同研究講座）」を設置し、「小型航空機の運航安全に向けた HMD システム」「GPS/INS(慣性航法システム)複合航法システム」等の研究テーマで活動している。

・飯田工業技術試験研究所

国内唯一の環境試験機器を複数台備え、中小企業の新技術新開発のための依頼試験や技術支援を行う。

・その他

食品系試験室、インキュベート室、コワーキングスペース、地場産品展示コ

■飯田市環境技術開発センター（所有・管理運営：飯田市）

- ・桐林環境産業公園内に立地するインキュベーション施設。家賃無料(共益費等別途必要)で利用可能。
- ・（公財）南信州・飯田産業センターや産学官連携による支援、「インキュベーションマネージャー」等による経営や技術の相談、事業化への支援を行う。
- ・交流室において、センター入居企業の取組成果発表会を実施。



出典：飯田市 HP

【入居企業（2025 年 1 月時点）】

- ・（株）電磁環境研究所（電磁ノイズ対策製品開発）
- ・アルプスウェア（株）（システム・ソフトウェア開発）
- ・AM システムズ（株）（各種電子装置、制御機器設計製造）
- ・（株）コネクト（ハーネス加工）

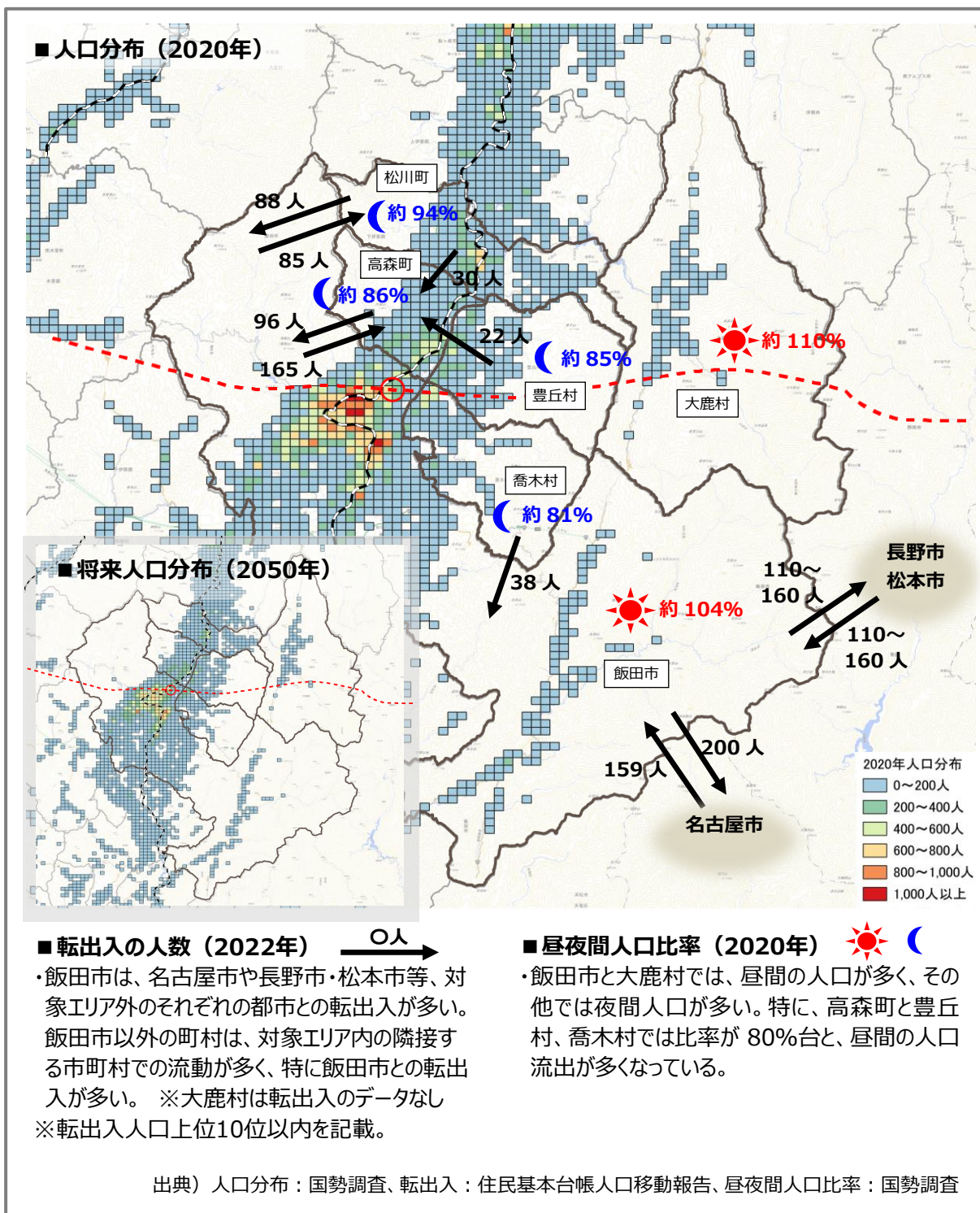
出典）エス・バード HP、飯田市 HP、NAGANO 航空宇宙産業クラスターネット HP

3) 暮らしをつくるヒトの活動

① 人口分布と人口の移動の状況

飯田市を中心に、南信州エリア内での転出入が多く関わりが強い

- ・2020年の人口分布状況は、JR 飯田線沿線や飯田市中心部に人口が集中。その他、河岸段丘の中段部及び上段部や、国道152号周辺に薄く広く分布。
- ・2050年には飯田市中心部で特に人口が減少する予測。
- ・各市町村では、近隣市町村への転出入が多く、特に飯田市との転出入が多い。
- ・飯田市と大鹿村では、昼間の人口が多く働き手が集まっているが、その他では夜間人口が多い。



② 人口の移動の状況

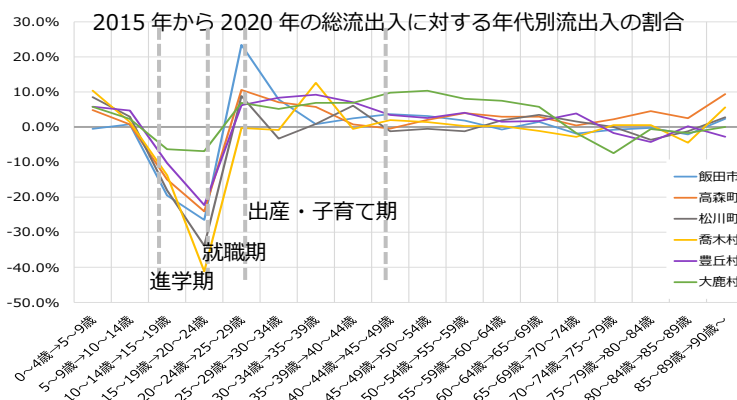
進学期に人口が大幅流出する一方で、出産・子育て期の流入が一定数あり。人口増加エリアは利便性の良い市街地や駅周辺。

・すべての市町村で進学期の人口が大幅に減少、就職期・子育て期の人口が一定程度増加する傾向。特に豊丘村、大鹿村では、出産・子育て期に流入が上回り、宅地整備や移住施策により、20～40代の転入が一定数存在すると考えられる。

・2015年からの5年間で、市街地や駅周辺、小中学校周辺など利便性の良いエリアや宅地整備が進むエリアで人口増加の傾向。

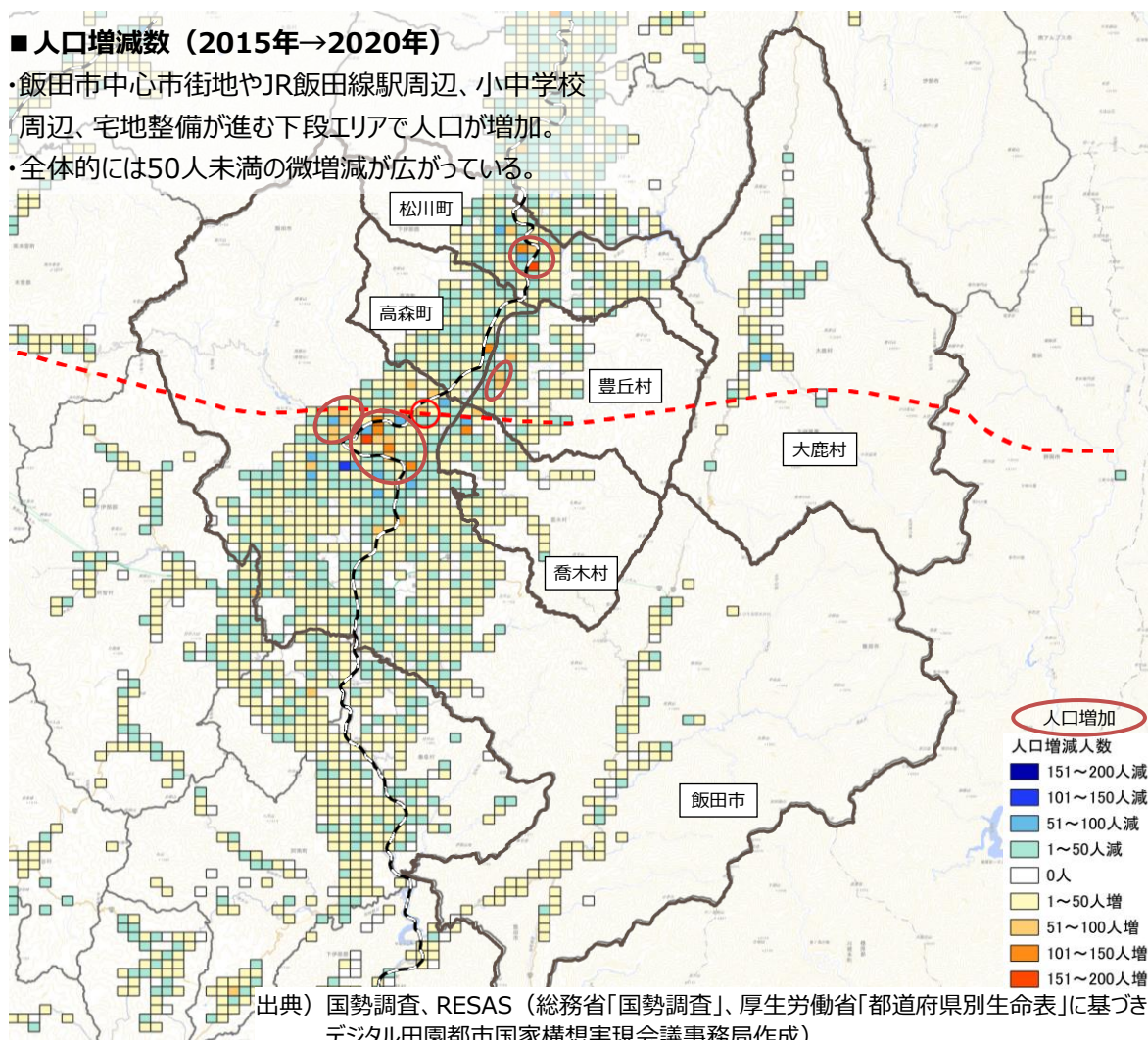
■ 年齢層別純移動率 (2015年→2020年)

・進学期に人口が大幅に流出。飯田市では就職期の流入が最も多い。高森町では外国人就業者の増加も影響し就職期の人口が増加。豊丘村、大鹿村において、出産・子育て期に流入が上回る。



■ 人口増減数 (2015年→2020年)

・飯田市中心市街地やJR飯田線駅周辺、小中学校周辺、宅地整備が進む下段エリアで人口が増加。
・全体的には50人未満の微増減が広がっている。

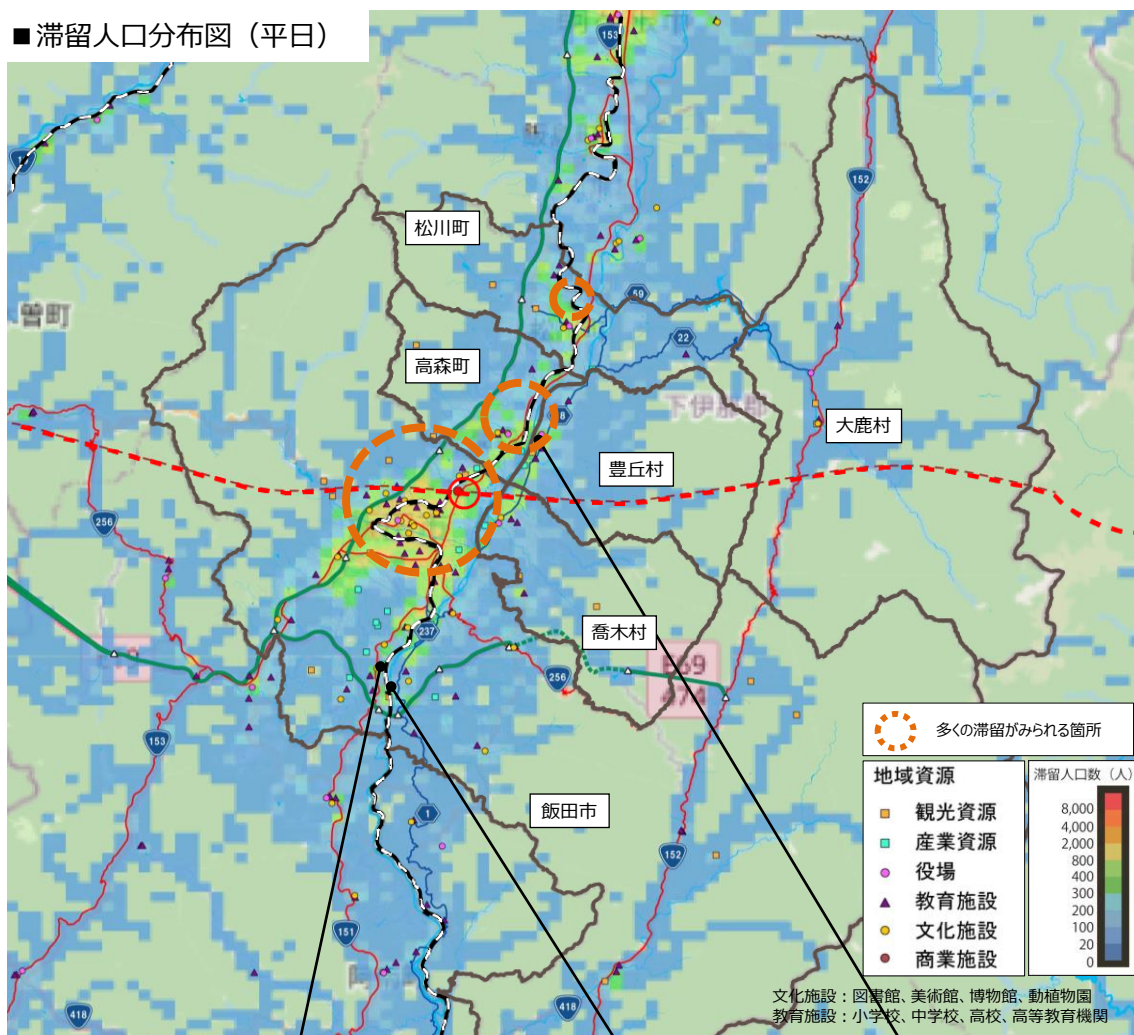


③ 滞留人口と地域資源

アクセス性の高い地域資源集積地で、人口の滞留を確認

- ・滞留人口が最も多く確認できるのは、JR飯田線沿いで、その他天竜川沿いの国道153号や県道18号周辺にも多くの滞留を確認することができる。
- ・地域資源が集積している箇所、特に伊那大島駅（松川町）周辺や高森町、豊丘村南部では多くの滞留が見られる。
- ・名勝 天龍峡などの特徴的な地域資源において、10年前より一定程度の滞留増加が確認できる。

■ 滞留人口分布図（平日）



10 年前と
比較して
滞留人口の
増加や分布
の拡大が
みられる施設

天龍峡エコバレープロジェクト (川路地区)



出典：飯田市 HP

天龍峡にほど近く、製造業の企業が主に立地する産業団地。

名勝 天龍峡



天竜川の浸食によって造り出された南北約 2 km にわたる峡谷。

南信州とよおかマルシェ



2017 年に設立された道の駅。

出典) 滞留人口分布図：RESAS（流動人口マップ：2023 年 5 月における 1 時間当たりの平均滞留数）、観光資源：「令和 4 年 観光地利用者統計調査」、産業資源：飯田市 HP、松川町 HP、高森町 HP、豊丘村 HP、喬木村 HP

4) 農林業

果物を中心に農業産出額の伸びや豊富な森林資源が確認できる一方で、農業体験スポットや販路の拡大・拡充、遊休農地の活用と従事者確保が課題

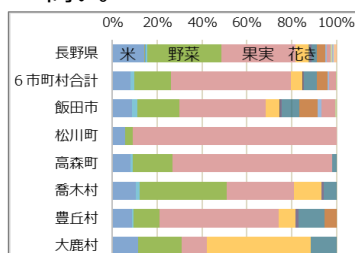
- ・農林業従事者の減少・高齢化の一方で、農業産出額が上昇傾向。
- ・農業では果実の生産割合が高く、リンゴやナシが主流。その他カキやブルーベリーなど多品目を栽培。
- ・特に果実の産出額が高い松川町では、観光農園が多く立地。全体として農家レストランや海外輸出など、魅力（特産物）を活かした農業体験スポットや販路拡大、遊休農地の活用が今後の課題。
- ・南信州エリアは、森林面積が約 17 万 ha、蓄積（樹木の幹の体積）が約 3,150 万³と森林資源が豊富。

■ 気候

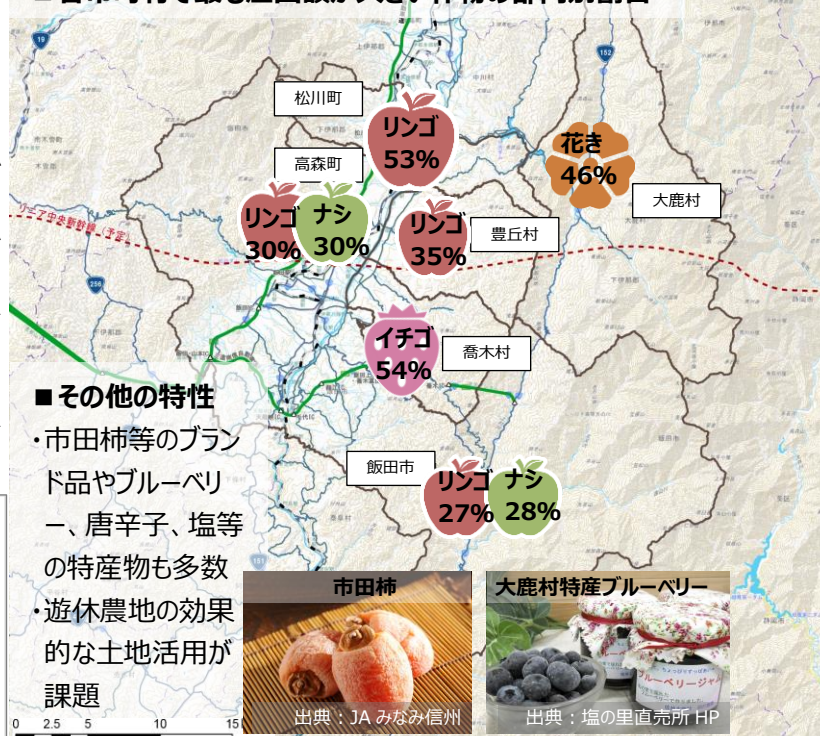
- ・農作物の北限と南限の交差部で年中栽培が可能

■ 部門別農業産出額の割合

- ・6 市町村合計の農業産出額は果実が最も高く、リンゴやナシの産出が多い。特に松川町は果実の産出額が 90% を超える。
- ・喬木村の産出額は野菜が最も高く、その内イチゴの産出が多い。
- ・大鹿村は花きの産出額が高い。



■ 各市町村で最も産出額が大きい作物の部門別割合



■ その他の特性

- ・市田柿等のブランド品やブルーベリー、唐辛子、塩等の特産物も多数
- ・遊休農地の効果的な土地活用が課題



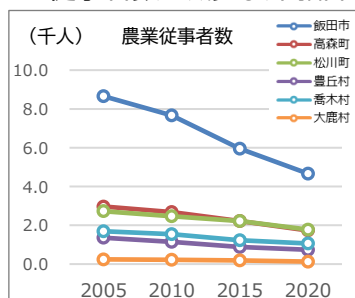
■ 農業生産関連事業

- ・全市町村で直接販売・加工で 6 割以上を占める。
- ・果実の産出が特に多い松川町では観光農園が飯田市を上回る。
- ・農家レストランは数%、海外輸出はほぼ 0。魅力（特産物）を活かした農業体験スポットや販路開拓が課題。

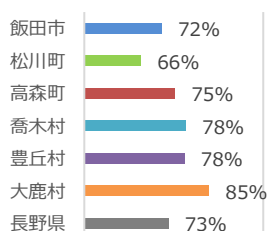
(単位：件)	飯田市	高森町	松川町	豊丘村	喬木村	大鹿村
農産物の加工	378	299	90	249	18	6
消費者に直接販売	1,752	273	400	116	94	23
貸農園、体験農園等	9	0	1	2	0	0
観光農園	76	21	86	18	20	3
農家民宿	30	3	3	5	0	1
農家レストラン	7	1	0	1	0	0
海外への輸出	1	0	0	0	0	0
小売業	466	59	95	8	7	6
その他	9	9	63	4	4	2

■ 農業従事者数の推移と 65 歳以上の割合

- ・従事者数は減少し、高齢者の割合は 65% を超える。

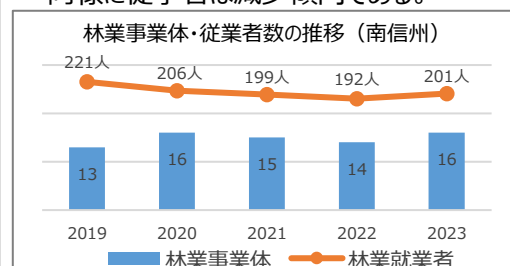


65 歳以上農業従事者の割合



■ 林業事業体及び林業就業者数推移

- ・事業体数に大きな変動はないが、農業と同様に従事者は減少傾向である。



出典) 農林業センサス、長野県林業統計書

5) 観光

① 広域観光圏

インバウンドや広域周遊観光需要に対応したプロダクト開発や観光地間連携が課題

- ・リニア駅開業や三遠南信自動車道の開通により、南信州の自然豊かな観光資源と、松本や諏訪・木曽など周辺の観光地と連携した広域周遊観光が期待される。
- ・近年の外国人観光客は、その地域特有の自然や文化などを求めて訪れる傾向があり、地域ならではの質の高い体験プロダクトの充実や広域周遊の促進などによる消費拡大が期待できる。

■ 広域観光

- ・南信州には国定公園や高原、温泉など豊かな自然を生かした観光資源が充実。
- ・さらに、リニア駅開業や三遠南信自動車道の開通により、上伊那、松本、諏訪、木曽、岐阜の観光資源と連携した広域周遊観光が可能になり、地域の収入力アップが期待される。

上伊那・松本・諏訪方面

- ・松本城
- ・美ヶ原高原
- ・上高地
- ・駒ヶ岳
- ・千畳敷カール
- ・諏訪湖
- ・諏訪大社
- ・白樺湖
- ・ビーナスライン



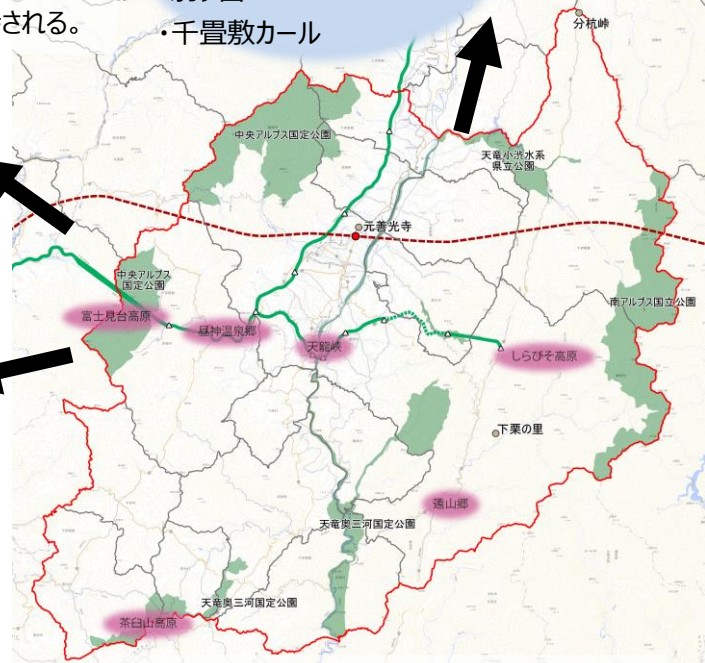
木曽方面

- ・妻籠宿
- ・御嶽山



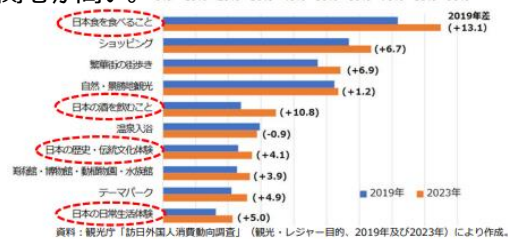
岐阜方面

- ・馬籠宿



■ インバウンド観光の動向

- ・日本食、日本の伝統文化や日常の暮らし等への関心が高い。



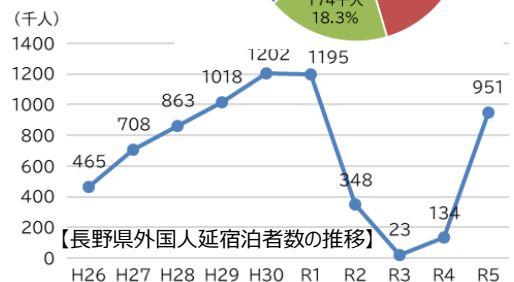
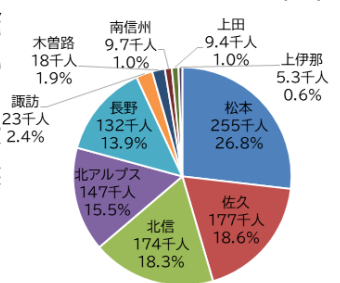
■ 地方におけるインバウンド客の消費拡大方策

- ① 豊かな自然や文化・食など、地域独自の資源を生かした地域ならではの質の高い体験プロダクトの造成・磨き上げ
- ② 地域内外の様々な主体との連携等による広域周遊の促進や戦略的な発信
- ③ 滞在体験の魅力向上等による長期滞在の促進

■ 外国人延宿泊者数

- ・長野県の外国人観光客はコロナ禍で減少したが現在回復。
- ・令和5年度の南信州外国人延宿泊者数に県内では8位。

【地域別外国人延宿泊者数(R5)】



出典）令和6年度観光白書概要版、長野県外国人延宿泊者数調査結果

② 対象エリアの観光資源

四季折々の美しくダイナミックな自然景観を活かした体験型観光と文化・民俗芸能の豊富さが魅力

- ・アルプスの山々や天竜川沿いに位置する農地などによって作りだされる美しい自然景観は、四季を通じて、様々な景色を楽しむことができる。
- ・地域特有の景観、自然、文化・芸能の資源が数多く存在しており、各市町村では、地域振興に向けてこれらの地域資源を活かした体験型コンテンツの創出・推進を図っている。特に自然景観や地形を活かした体験型観光として、対象エリア各所でサイクリング事業に取り組んでいる。
- ・人形芝居や歌舞伎、獅子舞といった文化・民俗芸能にも恵まれ、「民俗芸能の宝庫」とも呼ばれている。

■観光資源分布図



6) 暮らしを彩る取組みと資源

① 教育・子育て支援施策

ICT を活用した学習、有機農産物の学校給食での提供など、地域に根差した教育を推進

- ・喬木村は ICT を活用した教育の好例として、県で唯一文部科学省より村内 3 校が採択されている。
- ・県では自然環境を生かした教育のため信州自然留学を推進。飯田市が留学生を受け入れ。
- ・自然体験を促す「信州やまほいく認定制度」を県が推進し、飯田市、松川町、豊丘村、喬木村で認定。
- ・子育て支援施設・小中学校が一定程度近くにまとまって立地。

■ 各市町村における特徴的な教育・子育て施策



■ 信州自然留学

- ・都市部の子どもたちが長野県の農山村地域の農家などで暮らし、地元の学校に通いながら、自然体験する取組であり、山村留学発祥の地としてその活動及び発信を推進している。

■ 信州やまほいく認定制度

- 長野県の自然環境を取り入れた保育の普及を図ることを目的に長野県全域のあらゆる園種を対象に自然保育の質を重視した選定基準を設け、2015 年度より全国に先駆けて制度を導入。

出典)飯田市 HP、喬木村 HP、高森町 HP、大鹿村 HP、松川町 HP、信州やまほいくの郷、信州自然留学、文部科学省 HP

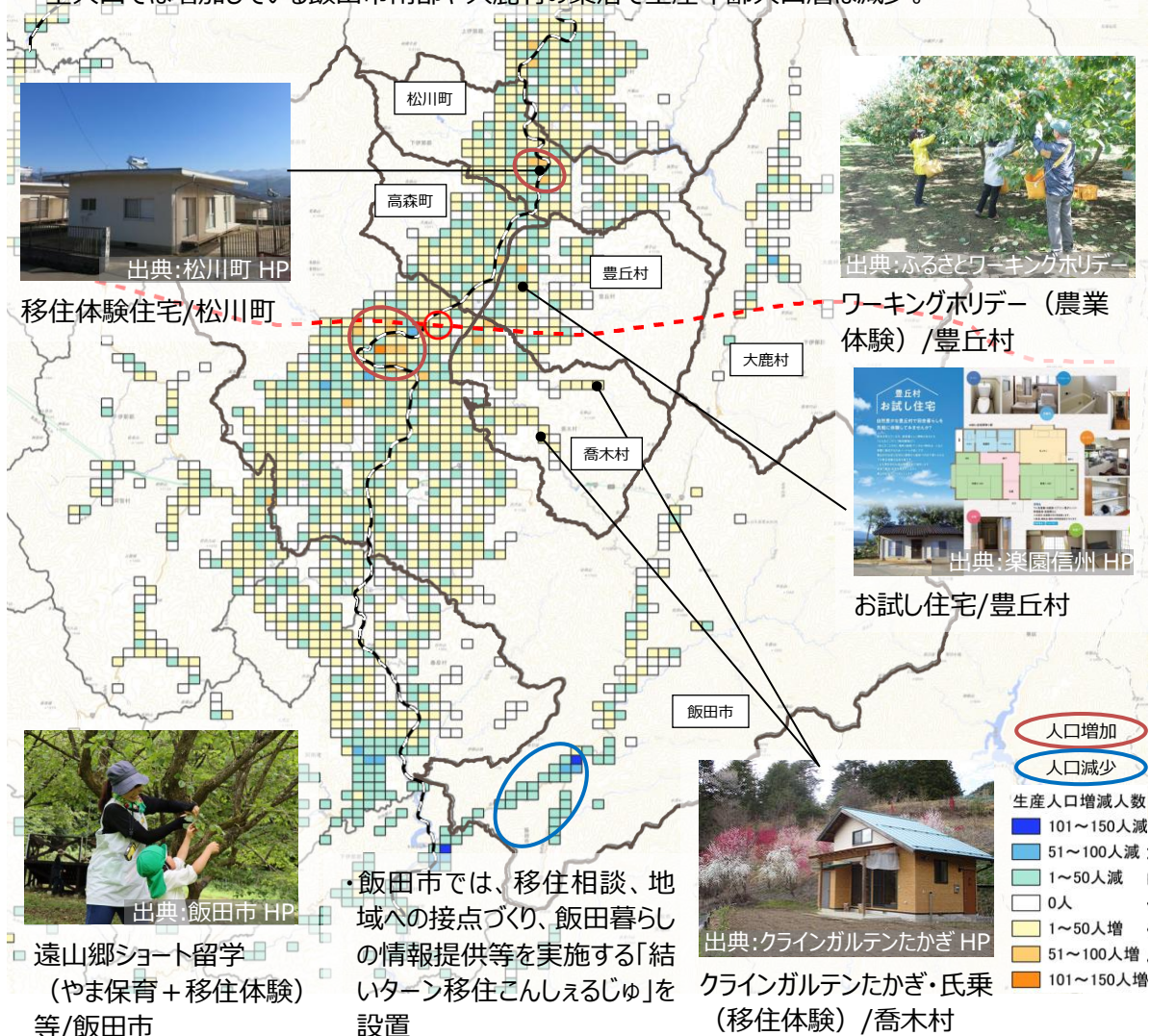
② 移住支援と人口増減

住宅取得や就労支援など、移住施策を推進する中、山とまちの魅力を感じられる利便性の良いエリアが人気

- ・各市町村では、住宅補助や空き家紹介、移住体験住宅や移住体験ツアー等、実際に現地で過ごして暮らしを体験する施策を展開。
- ・生産年齢人口層は市街地や駅周辺で増加し、山間の集落では減少。ある程度利便性が良く、山とまちの魅力を感じられる環境の人気の見られる。

■生産年齢人口（15～65歳）増減数（2015→2020）

- ・飯田市中心市街地やJR飯田線駅周辺、小中学校周辺、宅地整備が進む下段エリアで人口増加。
- ・全人口では増加している飯田市南部や大鹿村の集落で生産年齢人口層は減少。



■市町村の移住に関する支援の有無

		飯田市	松川町	高森町	喬木村	豊丘村	大鹿村
住宅支援	住宅取得助成	●	●	●	●	●	●
	空き家紹介	●	●	●	●	●	●
就労支援	新規就農支援	●	●	●	●	●	●
	起業支援	●	●	●	●	●	●
	通勤費助成	●					●
お試し居住	移住体験住宅	●	●			●	
	移住体験ツアー	●	●		●	●	

出典) 国勢調査、南信州暮らし（南信州広域連合）

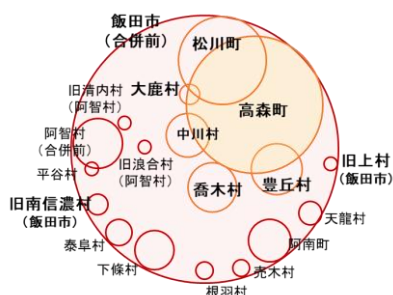
③ 商圏・吸引力係数

最大の商圏である飯田市、利便施設が集積する高森町がエリア内商圏を支える一方で、買い物弱者への対応が課題

- ・飯田市は南信州全域を商圏に含み、高森町は大型商業施設が立地し隣接する松川町と豊丘村を二次商圏に含む。飯田市が周辺市町村の購買を支えている状況だが、集落等に住む買い物弱者への対応が懸念される。
- ・豊丘村はとよおかマルシェによる吸引力係数[※]の増加が考えられ、特色ある購買施設の需要が伺える。

■ 商圏

- ・飯田市は南信州全域の町村を一次商圏に含む。
- ・高森町は、コンビニ・塾・大型商業施設等が多く立地し、松川町・豊丘村を二次商圏に含む。



商圏：各地域の消費需要を吸引する地域



30%以上を吸引
10～30%を吸引
5～10%を吸引

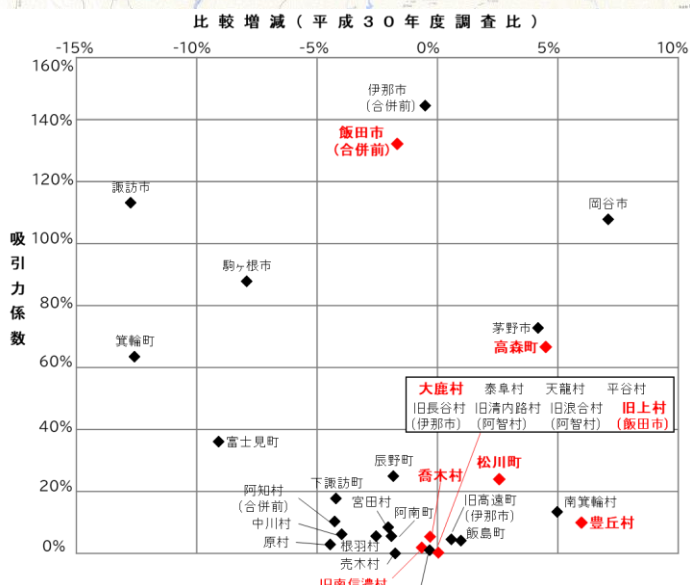
■ 主な購買施設



■ 吸引力係数

- ・飯田市の吸引力係数[※]は約 130%で、他町村は全て 100%未満。飯田市は南信州全域から買い物客が集まる。
- ・高森町は、飯田市の次に数値が高く 60～80%。近隣の町村を二次商圏に含み、MEGA ドン・キホーテ等の施設に買い物客が集まると推測される。
- ・豊丘村は 2018 年の数値に比べ増加率が高い。同年に南信州ととよおかマルシェが開業した影響と考えられる。

※吸引力係数：数値が大きいほど、地元滞留人口と他市町村からの流入が多い



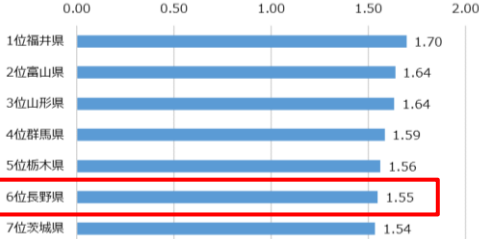
7) 域内交通

新モビリティや自動運転バス等新たな技術を活用した多様な交通手段の確保と、観光や健康づくりと連携した交通施策の推進が課題

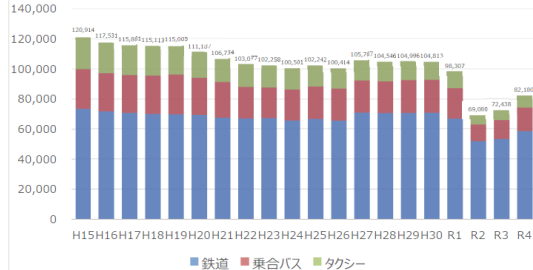
- ・長野県の自家用車普及台数は、1.55 台で全国 6 位と高い一方、公共交通利用者は減少傾向。下記市町村コミュニティバスやデマンド交通（飯田市・松川町・高森町・大鹿村）により、交通弱者に対応。
- ・飯田市、南信州広域連合では、EV や自動運転等の次世代モビリティや、AI、MaaS 等の新たな技術を活用した公共交通手段確保を推進。
- ・県の自転車活用推進と併せ、豊丘村でも計画を策定し自転車を活用した観光・健康づくりを推進。

■ 県内における交通の利用状況

自家用車乗用車の世帯当たりの普及台数ランキング



県内公共交通機関利用者数の推移



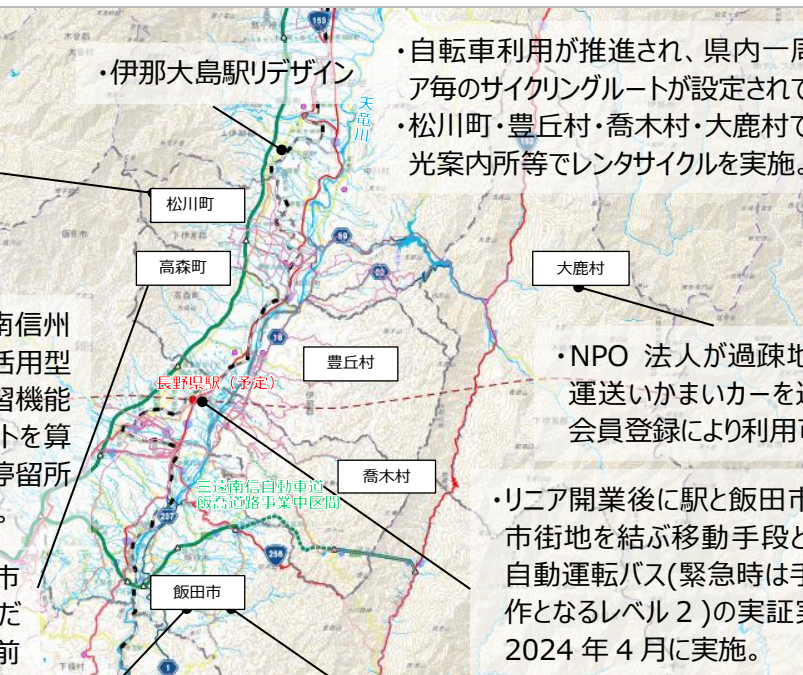
- ・長野県の世帯当たり自家用車普及台数は全国で 6 番目に多く、公共交通利用者は年々減少。

■ 各市町村における新たな交通導入状況



チョイソコまつかわ

出典：ユーグループ HP



・伊那大島駅リデザイン

・松川町

・高森町

・豊丘村

・喬木村

・飯田市

・大鹿村

・「チョイソコまつかわ」は南信州地域では初となる AI 活用型デマンド交通。AI が学習機能により最適な運行ルートを出し、自宅から指定の停留所までの乗合運行を実現。

・平日帰宅時間帯に、市田駅・下平駅発の「ただいまバス」が運行。事前乗車予約により停留所まで利用可能。

・自転車利用が推進され、県内一周やエリア毎のサイクリングルートが設定されている。

・松川町・豊丘村・喬木村・大鹿村では、観光案内所等でレンタサイクルを実施。

・NPO 法人が過疎地有償運送いかまいカーを運行。会員登録により利用可能。

・リニア開業後に駅と飯田市中心市街地を結ぶ移動手段として、自動運転バス(緊急時は手動操作となるレベル 2)の実証実験を 2024 年 4 月に実施。



いいだ愛のりタクシー

・エリアごとに運行する 14 路線の予約型乗合タクシー「いいだ愛のりタクシー」が運行中。



電気小型バスプッチー

・休日に飯田市中心市街地を無料運行する電気小型バス「プッチー」。路線上はどこでも降車可。

出典) 飯田市 HP、松川町 HP、高森町 HP、長野県地域公共交通計画、長野県高齢者向け移動サービス事例集、(一財)自動車検査登録情報協会統計情報、(一社)とよおか旅時間 HP、大鹿村観光協会 HP、喬木村 HP

8) 環境

2050 ゼロカーボンに向け、スマートグリッドや木質バイオマス活用等、地域住民や企業との協同による先進的な取り組みを実施

- ・長野県は、2050 ゼロカーボン掲げ、再生可能エネルギー普及拡大のための太陽光発電設置や木質バイオマス発電、省エネルギー化のための EV 導入促進や住宅の断熱改修促進等を推進。
- ・飯田市、高森町、喬木村では地球温暖化防止実行計画区域施策編を策定し、飯田市はスマートグリッドモデルの構築、高森町では木質チップバイオマスボイラーを使った温泉の導入等を推進中。

■各市町村におけるゼロカーボンに向けた取組

- ・2019 年、高森町の温泉施設に木質チップバイオマスボイラーを設置。木質バイオマスボイラー棟「あったか森のエネルギー工房」では環境学習が可能。

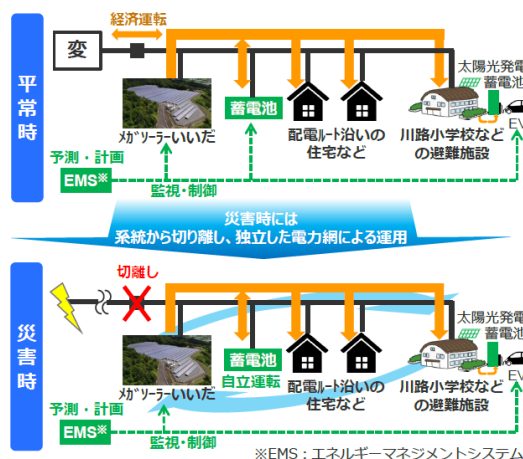


出典：メガソーラーいいだパンフレット

- ・飯田市の再生可能エネルギー利用のシンボルとして設置された太陽光発電施設。
- ・展望台を兼ねた PR 施設「おひさまの丘」も設置。

■川路地区における地域マイクログリッドの概要

「マイクログリッド」とは「小さな電力網」のこと。万が一、災害等により長時間の停電が発生したときには、地域内の太陽光などの発電所と蓄電施設等の中で、地域の配電線を使って小さな電力網を構成し、電気を送り届ける仕組みです。



出典) 中部電力 HP

- ・木質バイオマスを活用した、施設や観光との連携を目指す構想を作成中。



- ・飯田市の市民環境活動拠点「りんご並木のエコハウス」では、低炭素やエコライフに関するイベント・情報交換等を実施。

- ・2022 年度、飯田市は環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」を設立、講演会等のイベントや学生の探究学習支援等を実施。

- ・脱炭素先行地域（2022 年環境省選定）である川路地区では、地域マイクログリッド構築、太陽光発電及び蓄電池の積極導入、小中学校での環境教育充実化等を実施。
- ・飯田市は、マイクログリッドの取組みで得られた知見を活用し、リニア駅周辺にモデル的な低炭素街区創出の可能性を検討している

出典) 長野県ゼロカーボン戦略、飯田市 HP、高森町 HP